



府中国際交流サロン
FUCHU INTERNATIONAL SALON

くろするろ〜ど

かいほうし
会報誌

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよ たす あ 仲良く助け合っ
たの せいかつ ねが ねが 楽しく生活していくことを願って、活動を
つづ 続けています。

がつごう
2019/10月号

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★



げっかん がつ
〜サロン月間カレンダー10月〜

にほんごきょうじゅほうけんしゅうかいしよきゅう お
「日本語教授法研修会初級Ⅰ」を終えて

■文化交流活動

けんしゅうぶかいぶかいちよう おおしまよこ
研修部会部会長 大島洋子

10月4日(金) 午前10時半〜12時

「ダンス教室(ハワイアン)」15名・無料

場所: サロン託児室

*毎水曜午後1時半〜4時もダンス教室あり

10月11日(金) 午前10時半〜12時

「茶道教室」20名・参加費300円

場所: サロン託児室・10/10 12時締切り

10月18日(金) 午前10時半〜12時

「いけ花教室」15名・500円

場所: 事務局で確認・10/17 12時締切り

10月20日(日) 午後2時半〜3時半

「府中市65周年記念パレード〜府中小唄」

場所: けやき並木通り

*浴衣の貸出(有料)は相談・定員なし

★以上の対象は学習者とボランティアです。

今年度の研修は7月16日に無事終了しました。
受講者28名(公募24・現ボランティア4)全員が規定
の出席率を満たし受講証明書が渡されました。

終了後のアンケート調査の要点を以下にまとめ、
研修を振り返ります。(回収21名 複数回答可)

■教授法研修(全10回)の内容については・・・

「よく理解できた」「理解できた」「ある程度理解で
きた」の回答が80%

「よく理解できなかった」と答えた4名の方々は

- ・学習者への導入や説明の仕方がわからなかった
- ・文法が難しかった…等具体的に挙げています。

■講義全体の時間数(20時間)については・・・

「適当」12名・「時間不足」9名とほぼ半々に。

・どの位時間をかけたら自信をもてるようになる
かわからない…は皆に共通した思いでしょう。

■ほかに受けた研修については・・・

「学習者の間違いやすい文法や用法の指導」10名

「学習者のレベルに合った教材の選び方」15名

「全く日本語のわからない学習者に対する教え方

・手順」

「敬語・丁寧語、3種の文字の扱いについて」等の

希望も上がっており、これらのテーマでの研修や
勉強会はボランティア全体で重ねていきたいもので
す。

■月例勉強会

10月16日(水) 午前10時〜12時

「日本語学習会〜2時間枠の使い方」

場所: 事務局で確認してください

対象: ボランティア(学習者も参加できます)

■「私のふるさと」を語る

10月5日(土) 午後2時〜4時

場所: プラッツ第5会議室・参加費: 200円

対象: ボランティア・学習者・市民

■バーベキューの集い

詳しくは「みんなの広場」をご覧ください。



せ かい ぶん か
世界の文化

「よさこいおどり」

さとう けうたー (タイ)

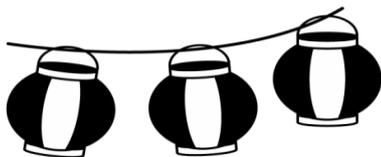
こんかい、ゆかたでよさこいおどりに、さんかできることになり、やった、とおもいました。まえから、ゆかたにきょうみがありました。

ゆかたをきせていただいているとき、うれしさ、よろこび、ゆうえつかんみたいなものをおもいました。

おどりのれんしゅうは、むずかしいとおもいながら、てまね、あしまねで、まちがいながらも たのしくできました。

よさこいおどりとうじつ、ゆかたをきせていただき、だんだんきんちょうしてきました。すたーとして、おおぜいのひとがみているなか、まちがえたり、おくれたりして、はずかしかったけど、ゆかたのわたしをみてくださいとおもいながら、おどりました。

おわたあと、かんじたことは、にほんのぶんかにふれ、にほんじんと、がいこくじんが、いっしょにおどったということが、なによりも、たいせつとおもい、たのしかったです。らいねんも、さんかしたいです。



「よさこい踊り」

あべな デュク ダムア (ガーナ)

お盆は日本の文化で、祖先をお祝いして思い出すためにあります。多くの方は実家に戻って墓参りと墓の掃除を行います。多くの方が実家に帰るからこそ家族の親睦会も可能です。日本人は、その嬉しさを表すために、お盆踊りという踊りを行います。

2019年8月24日に私と他の外国の方と数人の日本人と一緒に盆踊りができました。府中市のおかげで盆踊りが参加できたことは心から光栄に感じました。いっぱい元気で私と他の外国の方と数人の

日本人が賑やかな音楽を聴きながら踊りました。この経験の一番好きなところは着物が試着できたところです。多くの人からたくさんのお褒めをもらって日本人になった気分でした。日本の文化が直接経験できたことは私にとって大事な経験でした。そのイベントに参加したことで日本人はどのぐらい日本の文化を大切にするのか分かるようになりました。

そのイベントを行った府中市に感謝します。そして、府中国際交流サロンがそのイベントに参加させてくれて心から感謝します。永遠に忘れられない経験になりました。



「よさこい in 府中」で踊るアベナさん(左から二人目)と佐藤さん(右から三人目)

私のふるさと ~16~

「地方に残る文化、万灯火(まるとび)」

きんようよる かにはるき
金曜夜ボランティア 可児晴樹

湖の真ん中に一滴水を落とすと、中心から波がさざ波となって伝播し、さざ波は消えても岸辺に波紋が残る。誰の言葉だったか忘れたが、文化も同じようなものだという。中国から伝わった様々な文化が、京都に伝わり、日本各地に広がっていった。中国や、京都で、そういった文化がすぐに廃れてしまっても、各地に伝わった文化は、岸辺に残った波紋のように、地域の伝統文化として残っている。

私の生まれた、秋田県の北部である大館、能代の中間に位置する合川(現在では北秋田市と名前が変わった)も、そんな文化が色濃く残った山あいの地域だ。熊打ちで有名なマタギの里にも、比較的近い。

秋田名物である、竿燈やなまはげは、聞いたこと

のある方でも、方灯火という行事を聞いたことがある方は、少ないかもしれない。方灯会は、もともと天平時代に奈良から始まったと言われているが、その伝統が広がり各地に残っている。北秋田市でも、伝統として方灯火が長い間 伝承されてきた。おそらくは、奈良を源とする方灯会が地方に伝わったものの一つだろう。

春先に墓地に行き、墓の前に藁を積み上げ、先祖の魂が、迷うことなくふるさとに戻ってくるための道しるべとなるように、藁に火をつけ、燃やすという風習があった。子供の頃は、方灯火がさらに大がかりになり、松脂や油を使って、川沿いに大きい灯が数多く作られ、並べられ、夜空に幻想的な風景が広がったものだ。

ただ故郷は、過疎化が進み、幼い頃に一緒に遊んだ仲間の大半は、故郷に帰らず、関東近辺に住んでいるという。長年、行ってきた方灯火がいまでも、年中行事として行われているかどうかは、定かではない。



かわぞ まとび
川沿いの方灯火

しん

新ボラさん こんにちは

5月から開講した全10回にわたる教授法研修を受講された新しいボランティアの方々が、9月から日本語学習会で活動を始められています。その皆様方をこのコーナーで順次ご紹介いたします。

げつようごご
月曜午後ボランティア 武田 和美

9月からお世話になります、武田和美と申します。府中出身です。日本語教授法の研修のことを市の広報でみつけて「私にもできるかもしれない…」という興味本位で来てみました。研修を受ける度に日本語の奥深さを感じ、自分が教える立場になる不安もありました。体験では、外国人の方が素直で真剣な姿勢で教える側と向き合っていたので、感心しました。外国人の方にお話を伺うと、家族がいて日本で暮らしていくために必要に迫られて日本語を勉強していることがわかりました。私も紆余曲折しながら、そのお手伝いをさせて頂くことで、自分も成長できればと思っています。

私事ですが、普段はパートでレジの仕事をしています。買い物のシュミレーションを取り入れてみるのも面白いかもしれません。趣味は フラワーアレンジメント、チョークアート、映画鑑賞、ハイキングなどです。興味のある方、声をかけて頂ければうれしいです。よろしくお願ひします。

げつようごご
月曜午後ボランティア 香川尚子

私が今回の研修会に参加しようと思っていたのは他の地区の国際交流協会で仕事をしている友人から、日本の生活に馴染めず困っている外国の方々が大量にいらっしゃるということを聞いていたからです。

また、私は料理が好きで、いろいろな国の食文化にも興味があり、以前こちらで主催された「ベトナム料理教室」に一般参加させて頂き、とても楽しく

勉強会報告

～96～

「新ボランティアさん ようこそ」

研修部会 萱生 由美子

現地ならではの料理を教えてもらいました。その時に、いつか少しでもお手伝いが出せないかと思う気持ちもありました。

実際に日本語研修を受けてみますと、改めて日本語の言語としての難しさを感じましたし、普段、何気なく使ってきた日本語を見直すよい機会となりました。学習者の方々と一緒に、もう一度勉強をし直すつもりで取り組みたいと思います。

ともあれ、語学は継続が一番大事であると感じています。(自分も英会話で苦労しております…)

共に学び合うという姿勢で、学習者の方々が少しでも長く継続して笑顔で通ってもらえるような雰囲気を作ってあげられたらよいなと思っています。

月曜午後ボランティア 佐藤悦子

府中で生まれ、この年迄府中に住んでいます。子育ても終わり、やれやれ自由になれるぞと思ったが娘の子供の子守りが始まった。

漸く孫も保育園に通う様になり、時々送迎バス停までお迎えに行くと、数人のお母さんの中に中国の方が居らして日本語に苦労しているらしい。積極的な娘は、その方と親しくなり府中国際交流サロンを紹介し一緒に案内したが、彼女は大人しい性格の為か続かなかった。若い頃の私を見ている様で(?)、お会いした時は、笑顔で声かけしました。親へのおてがみなどは、日本人の御主人に見てもらい苦労しているそうです。

私の姪家族も、今年海外勤務の為引越し、多くの不安と向き合っています。府中は、外国人住民数が5千人を越え、少しでもお手伝い出来ればと、日本語教授法研修会に参加し、9月から不安を抱えボランティアとして先輩の側で1回目を終了しました。これから学習者さんと共に楽しく交流が出来る様、お手伝いしていければと思いますので、皆様宜しくおねがいます。



今回は9月から活動を開始した新ボランティアさん(以下新ボラさん)をお迎えして、現ボランティアさん(現ボラさん)との意見交換や、教材の紹介を9月18日に行いました。参加者は22名でした。

まずは新ボラさんの感想です。

- 見学したベテランの人の教え方が参考になった。
- 学習者が持参した教材で楽しく勉強したが全く話せない人だったらどうすれば良いか。
- 学習者もボランティアも楽しく学習出来るように心がけたい。
- N1のレベルが高すぎて、自分が勉強しないととても教えられないと感じた。
- 現ボラさんが電子辞書を上手に使っていたので、自分も早速使おうと思う。
- 文字(ひらがな、カタカナ、漢字)の読めない人にはどう教えたら良いのか。

次に、皆さんからの質問への答えです。

Q1 全く話せない人への教え方は?

A1 絵、写真、地図、

ちらし、紙の時計、カレンダー、現物、『文化初級日本語I』の“生活の言葉”等を使って、挨拶・身近な物の名前・数字・お金の数え方・時間・曜日等をまず教える。聞き取らせ、発音させる。

Q2 文字が読めない人への教え方は?

A2 (後半の教材紹介で)

Q3 英語で話してほしいと言われたが……。

A3 最初のニーズを聞き出す時などは良いが、後は単語レベル程度に。ボランティアが日本語で話さないと、学習者の日本語は定着しない。(短期滞在者は



ケースバイケース)

後半は、サロンの書棚にある教材の紹介がありました。(詳細はサロンの書棚の横に掛けてある教材一覧表をご覧ください。)

当サロンには、学生、主婦、留学生の家族、企業や料理店で働く人など、滞在期間も目的も環境も異なる学習者がやって来ます。その人たちがそれぞれ必要とする日本語(ニーズ)に合った教材を選べるように、まずは書棚を良く眺めてみましょう。

「おとしぶみ」

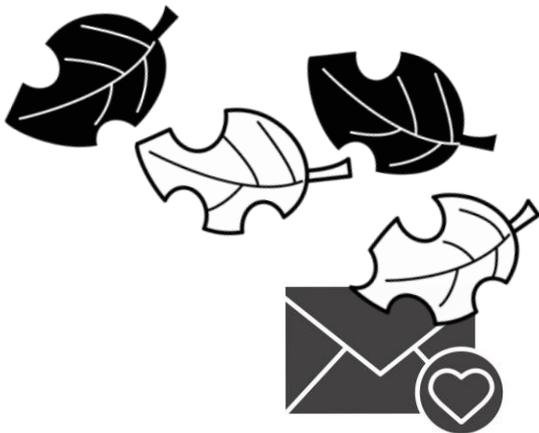
金曜夜ボランティア 和田泰弘

5月のある日、山梨の西沢溪谷を散策しました。強い日差しを新緑の木陰が和らげてくれ、緑と光の心地よいコントラストの中を歩いていると、連れ合いがふと、小径の傍らに落ちているものを拾い、「これ、おとしぶみ」とつぶやきました。2センチにも満たないぐらいの長さの、くるくるっと巻かれた葉っぱは「おとしぶみ」といい、昆虫が木の葉に卵を生みつけたもので、小学校の理科の授業で習ったことを教えてくれました。目を凝らすと、あたり一面に「おとしぶみ」が落ちており、その一つを拾い開けてみると卵はなく、小さな穴が空いており、どうやら孵化して無事巣立ったもののようなものでした。

スマホの動画で調べると、適当な大きさの葉選びから、それを器用に折りたたんで巻き上げ、その途中で卵を生みつけ、「おとしぶみ」が完成し枝から切り離すまでの凡そ1時間、その過程が克明に写され、昆虫の小さな世界の精密な営みに目を見張られました。

「落とし文」とは、そもそも公然とことばに出来ないことや秘かな想いを文に書きとめて、相手が気づきそうなところにこっそりと残す置手紙のことで、落書とも言います。「おとしぶみ」の由来は、筒状に巻かれた葉っぱの形が小さな巻き手紙に似ていることに拠るそうです。俳句では夏の季語にもなっており、例えば「落とし文 ありころころと 吹かれたり」(星野立子)のような句があります。

小径で拾った緑の「おとしぶみ」を広げてじっと見ていると、そこには、葉っぱにくるんで落とし新しい命が無事育ってくれるようにという母虫の切なる願いが文となって浮かんでくるようでした。



皆さんよろしく◇学習者紹介

投◇稿

ゲン バン ダットさん(ベトナム)



もうべんきょうちゅう 「猛勉強中です」

2018年1月ベトナムのホーチミン市から来日しました。

日本語が上達したら日本の大学に行きたいと日本語学校に週5日午前中に行き、サロンでは4学習部会で勉強しています。9月には留学生を受け入れてくれる大学に願書を出し、11月には試験があるので猛勉強中です。

ベトナムの大学では会計学を学びましたが、日本では経営学を勉強して将来会社を経営したいとの夢を持っています。

現在お母さまが社長として会社を経営していますが、将来自分も日本の会社で勉強してから、会社の経営をしたいと考えています。

サロンでは多くのボランティアの先生方から教えていただき、とても楽しいそうです。

日本語学校の授業料はお母さまが出して、マンションの家賃はコンビニとラーメン屋さんのアルバイトでダットさんが払っているとのこと。

日本の食べ物はお刺身が好きで、ベトナムのものは、お母さまが作ってくれるものはどれも大好きという素直な好青年です。

若者らしくアニメが好きで『ワンピース』、最近では『鬼滅の刃』『男子高校生の日常』というのが気に入っているそうです。

夢に向かって頑張ってください！ (堤 林)

『コンビニ外国人』の紹介

せりざわ けんすけちよ しんちようしんしょ
(芹沢 健介著・新潮新書)



きんようよる せんぼ たかし
金曜夜ボランティア 仙波 昂

最近上記書を読みました。サロンの皆様にも興味がある話題を取り上げていますのでご紹介します。

日本は移民を認めていません。しかし外国からの移住者は増え続けています。昨年は40万人程度でドイツ、アメリカ、イギリスに次いでなんと4位なのです。移民大国と言ってもいいほどなのです。

そうした中でコンビニでは4万人の外国人が働いています。全スタッフの5%を占めるようです。身近を見渡してもわかるようにコンビニ以外にもスーパー、居酒屋、牛丼チェーンなどでも外国人が戦力になっています。目立たないかもしれませんが農場、工場、介護施設でも外国人が不可欠な存在になっています。

これに対応するために日本語学校が隠れ蓑になっているかもしれないと著者は心配しています。日本語学校は全国に600校(著者の記述時点、現在は800校)あり、年々70校程度増加しています。簡単に言うと日本語学校が人材派遣業になっているのではないかと問題を提起しています。日本に長期(法的には90日以上)滞在するには留学生ビザの取得が手取り早いのです。留学生は週に28時間までしか働けません。しかし給料の振込先を複数にするなどあの手この手で守られていないこともあるようです。「日本語学校の闇」という穏やかではない一章を立てています。

新宿区には4万2000人の外国人が住んでいます。全住民の12%です。大久保地区だけに限れば40%が外国人だそうです。新宿区では有料、無料合わせて10か所の日本語教室があります。無料の日本語教室では日本語学校とは違って、文法などを体系立てて教えるのではなく、所謂サバイバルな日本語を

おし 教えています。普段の生活や地域とのコミュニケーションに役立てるのが目的とのことです。

このほかにも色々興味深い記述があります。サロンの皆様が広くお読みになることをお勧めします。

著者は長年、日本在住の外国人問題取材してきた作家、ジャーナリストです。



「日本語学校訪問記」

ふちゅうにしこう わたし
府中西高と「YSC グローバルスクール」と私たち

げつようごぜん きんようよる くわじま むねとし
月曜午前・金曜夜ボランティア 桑島 宗利

7月3日、府中国際交流サロンのボランティアで作っている「府中西高支援チーム」のメンバー10人で福生市にある YSC グローバルスクールの見学に行ってきました。「日本語学校」×「フリースクール」×「塾」として「定住外国人子弟就学支援事業」に取り組み団体です。

学校に行っていない生徒むけの授業や行事、外国にルーツを持つ生徒むけの放課後授業、高校進学準備コース、さらには外国にルーツを持つ中学生の主な進学先である定時制高校でのサテライト授業や、全国に点在している日本語が母語ではない中高生むけのオンライン授業にも取り組んでいます。日本人生徒(青少年)のフリースクール運営で培ってきた知識や経験を活かして、多様な生徒の芽を摘んでしまわない日本語指導をめざしているそうです。

私たちは高校進学準備コースを見学しました。他の教室では様々な国籍の中学生が学校代わりに勉強したりしていて、こちらはまさに多国籍フリースクールでした。

この学校と私たちをつなぐのは都立府中西高です。同校は多摩地区で唯一の「在京外国人生徒選抜制度」指定校になってから3年。42人が入学、その

うちの半数が福生YSC出身です。YSCは送り込む側で、府中西高は受け入れる側、私たちはその府中西高で日本語指導のサポートを行っています。(故)茂田さんをはじめ延べ30人が関わって来ました。

訪問では情報交換もしました。文科省や多摩各市での児童生徒支援の動き、日本語が母語ではない青少年支援のために市の職員が頑張っている具体例も聞くことが出来ました。

この訪問を通じ、他市や他機関とのつながりも活かして日本語が母語ではない生徒支援を続けていきたいと改めて思いました。

興味のある方はぜひお声がけください。



みんなの広場

「日本語学習の部屋が変わります」

先月号でもお伝えしましたが、市役所の改築工事にともない市の一部部署が、サロンが入っている府中駅北第2庁舎に移転してきます。そのため、これまで日本語を学習していたサロン3階の部屋が、10月1日(火)から、サロン2階の会議室に変わります。間違えのないように注意してください。

また、実行委員会・定例勉強会など、会議や打ち合わせで使っていた3階の第1会議室も10月から移転します。移転先についての詳しいことは、事務局で聞いてください。(編集部)



「バーベキュー開催のお知らせ」

～編集後記～

サロン恒例の「バーベキューの集い」を今年も多摩川河川敷で実施することになりました。ご家族、お友だちをお誘いの上ぜひ参加してください。内容と申し込みは、下記のとおりです。

- 日時：10月19日（土）午前10時～午後2時頃
 - 場所：多摩川河川敷（郷土の森駐車場南側）
 - 対象：サロンの学習者・ボランティア、及びその家族・友人
 - 参加費：1000円（小学生以上）、4歳以上の未就学児は500円、3歳以下は無料
 - 定員：60名
 - 申し込み：10月11日（金）までに参加費を事務局で払い申し込んでください。
- *詳しいことは事務局で聞いてください。（編集部）

この8月、研修部会OBの中原さんの別荘宅を研修部会の有志で訪れた際、ご自宅から近くの北杜市大泉町にある「金田一春彦記念図書館」に足を運びました。

大泉に住んでいたことが縁で、金田一春彦氏は自著をはじめ日本語や方言に関する蔵書をすべて町の図書館に寄贈し、一角にある「ことばの資料館」に収められました。研修部会の面々は、自分の故郷の方言を調べたり、方言クイズコーナーで、どこの方言かを推理したりして、思わぬ勉強会番外編を楽しみました。

日本語、方言に興味のある方には是非お勧めの観光スポットです！（和田）



- 【編集】 編集長：和田泰弘
会報部会：堤林、和田、岩城、末田
- 【事務局】 電話：042-352-4178
E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp
サロンのホームページ
<http://www.fuchukokusai.gr.jp>